

「花ももの里」活性化事業 (大石花ももの里実行委員会)

団体紹介 (私たちが目指しているもの)

- 昭和 50 年代から大石地区の各戸に植えられてきた花ももを名物にしようと、住民有志で実行委員会を立ち上げ、国道沿線に花ももの植栽を進めてきました。
- 現在では植えた花ももは 1,500 本を越え、見頃の 5 月には地域をあげて「花ももまつり」を開催しています。また、花ももの実や葉などを活用した特産品の開発・販売にも力を入れています。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

- 大石区の幹線道路である国道 299 号と町道八郡 2 号線の一部に花ももの植栽花壇への花植えを行うとともに、草刈り、ごみ拾い、パトロール等の維持管理を継続的に実施
- 「花ももまつり」などのイベントの開催
- 花ももケーキ、花ももスパークリングワイン、花もも石鹸などのオリジナル商品の開発・販売

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H19～21	花ももの里事業	花ももの植栽と花壇整備、草刈り、ごみ拾い、小規模な公園の整備等	1,621 千円
H22	「花ももの里」活性化事業	公園へののぼり旗設置、小イベントの開催、特産品の試作	349 千円
H23	「花ももの里」活性化事業	「第 1 回花ももまつり」の開催、特産品のモニタリング、ロゴマーク制作	737 千円

最近の活動内容

- 「花ももまつり」(第 2 回～第 4 回) の開催
- 国道 299 号沿いの植栽活動、花壇の管理、美化活動
- 現在 3 種の「花ももオリジナル商品」を販売し、その収益を「花ももまつり」などの会の活動費に充てている。また、新商品の開発をしてみたいという意見も出てきたり、イベントだけでなく「まちの駅」等に常設されるなど販路も拡大している。「花ももケーキ」においては、26 年度は 1,500 個近く販売する予定



【花壇の整備】

取組の効果

- 「花ももの里」としての知名度が広がりをみせていて、「花ももまつり」への来客数も年々増えている。
- 会員も大石地区外からの入会も徐々に増えている。
- 国道 299 号を中心に植えた花ももの数は 1,500 本を超えており、美しい景観を創り出すことはもとより集落の一体感を高めている。
- 花ももは景観だけでなく、花・実 (ケーキ)、実 (スパークリングワイン)、葉 (石鹸) をそれぞれオリジナル商品に活用するなど、一石二鳥の効果を生み出している。



【花ももまつり】

課題、今後の事業展開など

- 「花ももオリジナル商品」の広域での販路拡大を図りたい。
- 地元の子供達に活動に参加してもらう事により、郷土愛を育み、後継者を確保・育成したい。
- 「花もも」と言えば「さくほの大石」と誰もが思い浮かべるような地域を目指して地道な活動を続けていきたい。

団体名	大石花ももの里実行委員会 (佐久穂町)
連絡先	代表 島崎 規子 TEL 0267-88-3290

復活上田雛によるまちづくり (全国つるし飾りまつり in 別所温泉実行委員会)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

上田地域では、厚紙を絹・縮緬で包み、刺繍を施し、桜の花、鶴亀、海老や鳳凰などに仕上げた「つるしもの」を、初節句を迎えた女の子の健やかな成長と幸せを願い、贈る風習があった。

別所温泉においては、かつて養蚕農家だった家が多く、現在も往時の蚕都づくりの家、蚕種の保存用の風穴が残っている。「つるし飾り」に絹織物の端切れが使われていたことから、「蚕都上田」の新しい観光資源として「全国つるし飾りまつり in 別所温泉」を開催し、上田地域の伝統文化財である「つるし飾り」のPRと、地域の活性化を図っている。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

「全国つるし飾りまつり in 信州別所温泉」を開催し、上田の「つるし飾り」、日本三大つるし飾りである酒田の「傘福」、伊豆稲取の「雛のつるし飾り」及び柳川「さげもん」を集めた展示イベントを行うとともに、シンポジウム、つるし飾り講習会、繭の里めぐりバスツアーを実施し、別所温泉の活性化と誘客に寄与した。

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H22	全国つるし飾りサミット in 信州別所温泉 稲取「雛のつるし飾り」上田「つり雛」酒田「傘福」柳川「さげもん」	・サミットの期間中、つるし飾り約 250 点を市内 22 箇所で展示 ・シンポジウム、講習会、バスツアーの実施	3,040 千円
H23	第二回全国つるし飾りサミット in 信州別所温泉 稲取「雛のつるし飾り」上田「つり雛」酒田「傘福」柳川「さげもん」	・サミットの期間中、つるし飾り約 300 点を市内 55 箇所で展示 ・プレつるし飾り、シンポジウム、講習会、バスツアーの実施	4,137 千円
H24	第三回全国つるし飾りまつり in 信州別所温泉	・まつりの期間中 1,000 個の飾りをつるしたつるし飾りをメインに、市内 59 箇所で展示 ・プレつるし飾り、講習会の実施 ・東京都のイベントへの出展	1,794 千円

最近の活動内容

- ① 上田城千本さくらまつりにあわせて「プレつるし飾りまつり」を開催し、あいそめの湯ホールにて作品を展示した。
- ② 7月に「つるし飾りまつり」を開催し、JR上田駅、別所線電車内、旅館など、約 50 箇所で展示を行った。
- ③ 10月に実施された、あいそめまつり、別所温泉公民館文化祭にあわせて、「つるし飾り」を展示した。



【 つるし飾り 】

取組の効果

- ① 平成 25 年には、東京目黒雅叙園にて開催された「越後・信州・栃木ひな紀行・百段ひなまつり」に出展し、上田の「つるし飾り」や、別所温泉のPRをすることができた。
- ② つるし飾りまつりの期間中に開催するつるし飾り講習会では、年々参加する方が増えているなど、つるし飾りが普及しつつあり、また、「全国つるし飾りまつり in 信州別所温泉」も定着してきており、地域の活性化につながっている。



【 プレつるし飾りまつり 】

課題、今後の事業展開など

つるし飾りの作品については、つるし飾りまつり期間中の講習会にてキット販売を行っているが、作品を販売してほしいとの要望もあることから、販売も視野に入れて、事業を継続したい。

団体名	全国つるし飾りまつり in 別所温泉実行委員会（上田市）
連絡先	事務局 関 守宏 0268-38-5463
E-mail	sekimori2128@po15.ued.ne.jp

**諏訪百名山に登る会による大見山登山道案内標識等の設置事業
展望台周辺整備事業及び中高年による記念登山事業
(諏訪百名山に登る会)**

団体紹介 (私たちが目指しているもの)

- ・ 山を愛し、多くの山に登ることを目標に 23 年前 (平成 3 年) に設立。
- ・ 諏訪地方の中高年の登山者を中心に、全国の山々に登り活躍している。
- ・ 毎月 1 回の山行を計画し、平成 26 年 10 月現在 237 回継続中。健康で楽しい山行をめざしている。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

近年、中高年の体力づくりの一環として、里山ハイキングがブームになっている。
大見山への登山道を、住民の憩いの場として親しまれ、また、貴重な観光資源として整備する。

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H23	大見山登山道案内標識設置事業	上諏訪駅より登山道を新しく整備	799千円
	展望台周辺整備事業	展望台下の雑木林の伐採	
	中高年による記念登山事業	完成した登山道経路にて記念登山	

最近の活動内容

- ・ 毎年 4 月の第 3 日曜日に大見山開山祭を開催
- ・ 開山祭の前に登山道の整備
- ・ 毎年秋 登山道の下草刈り
- ・ 市内の小学生の 4 年生校外学習の一環として
集団登山のアドバイスと PR をした
- ・ 南信州狼煙会に参加
- ・ 下諏訪山岳会の協力で、下諏訪側に下山道が
整備された
- ・ 南峰の吾妻屋にノートを置いて登山者の感想
を記入して頂いて参考になっている



【 開山祭にて楽を奏でる 】

取組の効果

- ・ 高島小学校 4 年生全員登頂した
- ・ 駅からハイキングに都会から多くの中高年の
登山者ありにぎわった
- ・ 南信州狼煙会に参加し歴史が甦る また下伊那
上伊那の公民館活動に協力し交流が深まった
- ・ 下諏訪山岳会との交流が出来た



【 南信州狼煙会 】

課題、今後の事業展開など

- ・ 展望台の右側(岡谷方面)の、雑木林の伐採したい
- ・ 展望台の下の伐採跡に植樹をしたい
(小動物の為の木の成る木々植えたい)
- ・ 展望台に 180 度見渡せる方位標識盤を設置したい

団体名	諏訪百名山に登る会
連絡先	大見山担当 河西 邦彦
携帯電話	090-2326-5662
TEL FAX	0266-52-1522
E-mail	torix@po30.lcv.ne.jp

消防戦隊ダンインジャーによる防災のまちづくり (辰野町消防団)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

辰野町消防団は消防組織法に基づいて設置されている非常備の自治体消防組織であり、常備消防と連携して地域の防災活動を担っている。昭和 23 年の消防組織法の施行に伴い、辰野町消防団の礎が築かれた。

現在、辰野町消防団は本部と常備部を含む町内 9 分団によって構成されている。

平常時には、消防団としての基本的な訓練をはじめ、地域の皆さんに対して訓練指導やお年寄りの暮らしている家庭に防火を呼びかけての訪問や、災害危険のある所の把握などさまざまな活動をしている。

また、災害時には、火災現場での消火活動、水防活動、台風時の警戒をはじめ住民の避難誘導、警戒区域の設定など常備消防と連携した活動をしている。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

消防戦隊ダンインジャーショーによる子どもたちへの広報啓発活動の実施や、保育園の子ども会での火の取扱いや花火の正しい遊び方の指導などを行っている。

また、消防団活動サポーターを募集し、ダンインジャーショーの参加や、拍子木隊による火災予防広報活動への参加体制を築いた。

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H23	出動！消防戦隊ダンインジャー	キャラクター衣装の製作、ワイヤレス音響設備の購入、テーマソング製作など	703千円
H24	出動！消防戦隊ダンインジャーZ（ゼット）	キャラクター衣装の製作、音響設備機器の購入、PR用団扇の作成など	750千円

最近の活動内容

例年 8 月に行われる町の成人式でダンインジャーが新成人に団扇を配布し消防団活動の PR や消防団への加入の呼び掛けを実施している。

また、町の各種イベントにおいてダンインジャーショーを実施し、子どもたちやその家族への啓発を継続して行っている。



【 成人式における広報活動 】

取組の効果

ダンインジャーショーを継続して実施することで、ダンインジャーが消防団員と共に辰野町を守る仲間としてのイメージが町の皆さんに定着している。また、子どもたちにショーを通じて啓発活動を行うことで、防災意識の醸成や、消防団への理解が深められた。

さらにサポーター業者の協力により、ダンインジャーとのコラボ商品の饅頭や大福もちが誕生し、地域を巻き込んだ取り組みに発展している。



【 カサイダー饅頭とちからもち 】

課題、今後の事業展開など

25 年度には、ダンインジャーの活動から誕生した防災体操「キッズファイアヒーロー」を子どもたちに覚えてもらい、ショーの中で一緒に踊る取り組みも始めた。今後は見てもらうだけでなく、参加して楽しんでもらう試みを増やしながら、広報啓発活動を実施して行くとともに、地域に密着し、地域に活力を与えるキャラクターとして活動の場を広げて行きたい。

団体名 辰野町消防団（辰野町）
 連絡先 電話：0266-41-1111
 ホームページ
<http://www.town.tatsuno.nagano.jp/baren/>
 メールアドレス
danhonbu@town.tatsuno.nagano.jp

食を通じた女性の生きがい創出 (特定非営利活動法人ごかの風)

団体紹介 (私たちが目指しているもの)

- ① 地元で採れる旬の野菜や果物などの農畜産物、野の物を使い
- ② 地域に伝わる食文化を知り伝える
- ③ つくる人、食べる人、みんなの笑顔を繋げる
- ④ 誰もが地域で楽しく暮らせる、あたたかい伍和を目指す

地域発 元気づくり支援金の活用状況

女性グループにより農業の振興や高齢者の生活支援のため「ごか食堂」を開設し、地元食材を使ったメニューの仕出し事業及び高齢者向けのお弁当宅配事業を開始した。また、調理場を兼ねる「ごか食堂」の建物を地元の人が集える場所として整備し、地元住民向けのイベントを開催した。

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H23	食を通じた女性の生きがい創出のための拠点施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「ごか食堂」調理器具の整備 ・地元住民が集うための食堂の環境整備 ・事業周知用パンフレットの作成 	1,030千円

最近の活動内容

平成 23 年度末には団体の目的・事業をより明確にし、継続性を高めるため任意団体から NPO 法人化。

仕出し弁当も認知度が徐々に上がり、様々な会議等の際に注文を受けることが多くなっている。

高齢者向け配食事業も村社協とも連携し人数や回数を増加させている。

「ごか食堂」を利用したイベントも定期的に開催しており、住民の交流の場となっている。

(H23 実績) → (H25 実績)

仕出し弁当 約 1,600 食 → 約 2,500 食

高齢者向け配食 1 回 10 人に週 1 回 → 1 回 38 人に週 3 回

取組の効果

会員が栽培している野菜を中心に地元食材を使ったメニューを展開することで、地元食材の発信・有効利用につながっているほか、約 30 人の女性が野菜の買い上げや料理作りを通して地域の中で能力を発揮する機会となっている。

高齢者向けの配食事業については村社協との連携により村内のより多くの高齢者に配食がいきわたるようになり、村の福祉サービスの向上に繋がった。

作業に携わった人には給料手当をきちんと支払うことで継続して作業に携わってもらえるモチベーションとなっており、また村内女性の収入の一助となっている。

課題、今後の事業展開など

日々の活動の中から生まれてくる、若いお母さん達とのつながりを大切にしながらお互いの技術を伝承し合い、さらに子育てをしながらも働く事ができる事業所を今後も目指していきたい。



【地元女性メンバーによる調理】



【地域の高齢者に週 3 回の配食】

団体名	特定非営利活動法人ごかの風
連絡先	0265-43-2744

地域の伝統芸によるおもてなし（妻籠宿地域伝統芸能継承者育成事業） （妻籠観光協会）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

妻籠観光協会は観光業の振興をはかり、かつ、旧妻籠村全域(重伝建妻籠宿)の景観保全に努めている。来宿者への満足度UPと宿泊者へのおもてなしを図るための事業として、夜の妻籠宿をPRし、さらに、行灯の明りしかない夜の宿場での地域に伝わる伝統芸能の紹介をしている。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

地域の伝統芸能木曾節・踊り、陣屋太鼓、さいとろさし、与川地区の神楽獅子等の継承者への支援として、その発表の場としての夏の伝統芸能の夕べ・妻籠宿火祭りを開催している。観光客もその体験を楽しんでいる。

イベント等に使用する法被も妻籠らしさのものを整備した。（イベント用のジャンパー等は使用しない）

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H21	妻籠宿魅力再発見	伝統芸能の継承者育成と夜の妻籠宿と筑前琵琶のマッチングの魅力発信・衣装整備	964千円
H22	妻籠宿伝統芸能の夕べ	夏の週末妻籠宿を訪れると町内の伝統芸能が鑑賞できる事をモットーに来宿泊者へのおもてなし	396千円
H23	妻籠宿地域伝統芸能継承者育成	地域に伝わる伝統芸能継承者育成と発表の場の提供をあわせて観光客へのおもてなし	632千円

最近の活動内容

伝統芸能で披露する芸能
木曾節・木曾踊り・・・体験踊りが出来る、プチ記念品贈呈
陣屋太鼓・・・妻籠宿保存のとき観光のおもてなし
芸能として始める。和太鼓の迫力を
体感し感動される。

さいとろさし・・・小鳥を取るしぐさのパantomイム
与川の獅子神楽・・・悪魔払いの獅子舞
妻籠宿伝統芸能の夕べと妻籠宿火祭りにあわせ多くの観光客に披露して喜ばれている。又継承者の練習の励みになっている。



【 陣屋太鼓の演奏 】

取組の効果

外国人が半数近くを占めるがアンケートによると満足度95%以上となっている。宿泊キャパが少ないので、各回100人前後で推移している。芸能継承者も満足している。特に海外からの来宿者は感動して、ネットで情報発信している。

課題、今後の事業展開など

宿泊業者が減少してキャパが減少傾向にありこの対応策が求められている。宿泊だけでなく夜の魅力発信と対応も必要。集落保存に活路を見出してきた妻籠宿。初心を忘れずに保存優先と協働の絆を中心に地域の伝統行事、文化を発信する。



【筑前琵琶を聞き入る観衆】

団体名：妻籠観光協会
連絡先：0264-57-3123
ホームページ、メールアドレス等
www.tumago.jp info@tumago.jp

地域と商店街を繋ぐ「なわて 水辺プロジェクト」 (ナワテ通り商業協同組合)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

「頑張っている店主のいる街をめざして！」～魅力的な街とは、物語がある街～

- ・女鳥羽川のせせらぎに寄り添い、花や緑にあふれた環境にやさしい街
- ・健康ウォーキングやジョギングを楽しむ市民が憩い、車椅子やベビーカーが安心して通行出来る街
- ・朝も昼も夜も一年中賑やかな商店街を訪れる観光客が「また来たい」と思う街
- ・「何よりも自分たちが頑張っている！！」店主のいる街

地域発 元気づくり支援金の活用状況

- 市民が憩える空間として元気づくり支援金を活用して購入したベンチ6脚を通りに設置、日々多くの人々がベンチを使用している状況。
- 水辺のマルシェは、4年目に入り今年度も4回開催。ナイトバザール3年間開催。
- シンポジウム・公開セミナー3年間3回開催。

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H23	地域と商店街を繋ぐ「なわて 水辺プロジェクト」	ワークショップ、水辺のマルシェ、かえるナイト、ナイトバザール、シンポジウムの開催 ホームページの制作、休憩・フリースペースの設置	3,000 千円
H24	〃	水辺のマルシェ、ナイトバザール、市民公開セミナー、水辺の学習会の開催、ベンチの設置	1,380 千円
H25	〃	水辺のマルシェ、ナイトバザール、連続学習会、シンポジウムの開催、ベンチの設置、ホームページ、ブログの更新	756 千円

最近の活動内容

水辺のマルシェ開催4年継続
橋の上のマルシェは、毎回30店舗程参加。
水辺の劇場は、毎回5組以上のパフォーマーが参加。

市民主体の運営で、マルシェ参加者や市民ボランティアが当日までの企画・広報を担当し、チラシ作成・HP・ブログ・フェスブックなどを主に告知し確実に来場者を増やしている。
チラシの印刷代金等は、広告掲載で費用を捻出。



【水辺のマルシェ】

取組の効果

継続により上記の広報に加えて、口コミで広まり、多くの方が松本中心市街地に来る効果をあげている。

出店者である、仕事以外で作家活動をする方や生産者の方は、制作活動などの発表の場、交流の場を持て、意欲を持つことが出来る。

女鳥羽川の水辺の活用が盛んになることで、多くの方がまち中の自然空間を見直すきっかけになってきた。

なわて通りの空間にベンチを設置することで、滞在時間が延びゆったりまち中を楽しむ効果をあげている。



【水辺のマルシェデコレーション】

課題、今後の事業展開など

水辺までのアプローチが難しく、より多くの方に水辺へ降りてもらえる工夫が引き続き必要。
そのためのボランティアなどの人材確保が必要。
次年度も継続予定。

団体名 ナワテ通り商業協同組合（松本市）
連絡先 kei@taiyaki-ya.com (担当山本)
公式HP <http://nawate-pj.com/>
ブログ <http://mizubepj.naganoblog.jp/>

女性ライフステージ健康支援プロジェクト事業 (特定非営利活動法人女性健康支援SANBAの会)

団体紹介 (私たちが目指しているもの)

助産師をはじめとする医療従事経験者が中心となって平成19年に設立。平成24年9月にNPO法人として内容も充実し活動を行っている。

妊婦や生後早期からの子どもとその母親及び思春期、更年期世代、高齢の女性達に対して、ライフステージ各期の健康に関する事業を実施。

地域の子育てママや女性達に新しい情報発信とパワフルな内容で、地域の人達が健康ではつらつと自立した豊かな生活、そして生涯が送れることを目指している。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H22	女性ライフステージ健康支援プロジェクト	妊娠、出産、子育て、更年期、高齢女性の各ライフステージに応じた健康づくりへの支援を目的に、エクササイズをはじめ、健康・子育てへの意識を高める講演会の開催や、子育て中の母親を支援するため、多様な年代の女性が集まり、情報交換やアドバイスを行うサロンを開催する。	379千円
H23	女性ライフステージ健康支援プロジェクト	女性のライフステージ各期に応じた健康づくりを支援するため、健康づくりイベントや講演会、産後早期の親を対象にした両親学級を開催した。	247千円

最近の活動内容

常に参加者のニーズを汲み取り、講座内容を充実し、参加しやすいよう工夫しながら各事業を実施している。

- 祖父母のための「子育て応援隊わらべうたマッサージ」を開催。
- 公民館からの依頼で「産後ママ・更年期エクササイズ」を定期開催。
- 公民館と共催で「3回目更年期をバラ色に」と題した講演会を開催。
- 「生後2カ月相談」、「育児相談」、「母子カンファレンス」を行政からの委託事業として、連携し協働で実施し、母子の指導に携わっている。
- 「骨盤ケア」を取り入れて産前産後ママのクラスを開催。
- 異世代間の交流「7回目健やかファミリーふれあいフェスタ in 大町」を開催。
- 更年期世代のエクササイズ講座には7年間継続参加している人が増加。



【健やかファミリーふれあいフェスタ】

取組の効果

行政と協働での事業が増加している。公民館と共催での講演会の開催や、保育園からの講師依頼、保健センターでの相談事業や両親学級を保健師と行うなど他職種、他機関との連携ができ、相互に不足する部分を補っている。

活動が地域に浸透・定着し、内容も充実し質が高められた。参加者の子育ての悩み解消、母乳で育てる安心感、更年期の不快症状、精神状態の改善等が図られ、健康への意識が高まっている。

女性の健康について、ライフステージに応じた支援が達成されつつある。



【子育て応援隊】

課題、今後の事業展開など

保健・医療・福祉の分野に於いては行政主体の事業が多いが、当会は地域の女性達の目線に立ちきめ細かな支援を継続すると同時に行政との協働をさらに進めていく。また、各講座・講演会に参加しやすい環境(参加費・託児等)作りや地域住民のニーズに柔軟に応えられる活動を目指し、継続した団体となる。

団体名 NPO法人
女性健康支援SANBAの会 (大町市)
連絡先 0261-23-0308
メールアドレス sanba308@ra2.so-net.ne.jp
ホームページ <http://www001.upp.so-net.ne.jp/sanba/>

ながの軽トラ市の実施 (ながの軽トラ市実行委員会)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

農家と商店会が協働で、中心市街地の活性化に取り組み、楽しく暮らせる街づくりを目指す。
また、地域住民や学生にも積極的に参加を促し、住民のふれあいの場となるようなコミュニティを形成するとともに、観光客へも地域の魅力をPRすることを目的として、市街地で軽トラックを利用した朝市を開催する。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

- 篠ノ井駅前通りを歩行者天国にし、新鮮な野菜や加工品を中心に軽トラックを利用して販売する朝市を5月から11月の第4日曜日に開催し、農家と商店会、地域住民の交流を図る場を創出した。
- 農家はお客様とコミュニケーションをとりながら販売することで意欲や意識向上が図られる一方、開催場所である商店街は賑わいが創出され新たな顧客獲得の機会が得られるなど、新たな地域活性化に向けた事業となるよう農家と商店会が協働して実施した。

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H23	ながの軽トラ市の実施	篠ノ井駅前通りで、軽トラックを利用した朝市を開催	3,354千円
H24	ながの軽トラ市の実施	篠ノ井駅前通り及び長野市中央通りで、軽トラックを利用した朝市を開催	2,548千円

最近の活動内容

- 5月～11月の第4日曜日（7月を除く）、篠ノ井駅前通りで、軽トラックを利用した朝市を開催。
今年度で4年目を迎え、出店者も増え、篠ノ井商店街の大きなイベント事業に育った。
- 毎回、さまざまなイベント（演奏・踊りなど）を取り入れ、誘客のために努力している。
また、スタンプカードを発行し、年間4回軽トラ市に来られたお客さんを対象に、最終の11月にくじ引き（空くじなし）を行い、商店会提供の商品を景品としてプレゼントしている。



【軽トラ市の様子】

取組の効果

- 地域の人々が毎月楽しみにしていることや、県外（静岡・山梨など）からの出店者が参加するなど、新たな交流や観光誘客に繋がっており、地域活性化に役立っている。
- 消極的だった商店会組合も自分たちが主催者になり、事業を進めるようになった。
- 県内外の団体が視察に訪れているほか、他地域でも軽トラ市が開催されるなど、事業効果の広がりが見られる。



【販売の様子】

課題、今後の事業展開など

- 地域の内外に認知され、出店者・来場者ともに増加傾向にある。また、インターネットでのPR効果もあり、全国の自治体や団体からの視察や問合せがますます後を絶たない。
- 主催者の商店会と、様々なアイデアを出し合い、将来に向けて規模を拡大していきたい。

団体名	ながの軽トラ市実行委員会	
連絡先	026-285-9701	(長野市)
ホームページ	http://keitora.naganoblog.jp/	

いいやまの伝統食によるまちづくり（郷土食普及販売拡大事業） （いいやま食文化の会 加工所 菜の花）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

平成 18 年編纂した『信州いいやま食の風土記』の内容を基に、飯山の郷土食を次世代に継承し、食育や地産地消の推進を図ることを目的に発足。

飯山市選択無形民族文化財である笹寿司をはじめ、先人の知恵が生み出した郷土食を地元産の食材を使って調理し、地域の人々や飯山を訪れる観光客に提供していくことにより、後世にその味を大切に伝承していきたい。

同時に、次世代を担う子ども達に郷土食の良さや調理方法を伝えることで、ふるさと「いいやま」を大切に思う心を育てていく。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

笹ずしをはじめとする郷土食の良さを普及するため、

①地域の小中学校・公民館・児童館などへ出向き、子供たちや若いお母さんたちを対象とした食育活動の実施

②平成 22 年 1 月にオープンした加工所の設備をより充実し、活動を普及させるための必要な備品類（調理台、物置、保冷式米びつ、テント）を整備した。

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H23	郷土食普及販売拡大事業	加工所に必要な備品類（調理台、物置、保冷式米びつ、テント）の整備	391 千円

最近の活動内容

平成 22 年 1 月の加工所オープン以降、市内外からの笹寿司、弁当、オードブルなどの受注生産を中心に、各種イベント（信越自然郷うまいもの市、かまくら祭り、菜の花まつり、バラまつりなど）で笹寿司等を PR した。

また、現在「道の駅 花の駅」においては常時販売もおこなっている。

平成 25 年 1 月には高橋まゆみ人形館に隣に郷土食の食事処「月あかり」をオープンさせ、観光客に郷土食を提供している。

また、平成 25 年からはじまった JR 飯山線イベント列車「走る農家レストラン」では、郷土食の提供とともに、ガイドとして北信地域の魅力を地元の言葉で紹介し、参加者から好評を得ている。



【 走る農家レストラン 】

取組の効果

・各種イベントへの出展やロコミで評判が広がり、販売実績も発足当初の 2 倍となっている。

・加工所には常時 7 名が作業にあたっており、地元の雇用にも結びついている。

・当初は笹ずし、弁当の製造が主であったが、飯山市を代表する観光スポットである「高橋まゆみ人形館」隣で地域の食材を使った郷土食を気軽に食べることが出来る食事処の運営も行っている。



【 子ども達への食育教育 】

課題、今後の事業展開など

・メンバーの高齢化が進んでおり（平均年齢 70 歳）、人材の確保が急務である。

・事業が拡大することで、加工所が手狭になってきている。

・将来的には加工所とレストランを併設して運営していきたい。

団体名 いいやま食文化の会加工所菜の花（飯山市）
連絡先 090-4389-4003（小関さん）